

(電子メール施行)
農技第1501号
平成29年12月14日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成29年度病害虫発生予報第7号を発表します。

平成29年度病害虫発生予報 第7号

向こう3か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
春キャベツ	菌核病	平年並	平年並
タマネギ	べと病	平年並	やや少
	白色疫病	やや多	やや多
	細菌性病害	やや多	平年並
春レタス	菌核病	やや多	平年並
	灰色かび病	やや少	少
	ビッグベイン病	やや多	やや多
	腐敗病	平年並	やや少

* 気象の概況

近畿地方 3か月予報

(12月から2月までの天候見通し)

平成29年11月24日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。近畿日本海側の降雪量は、平年並または多い確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

1月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

2月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

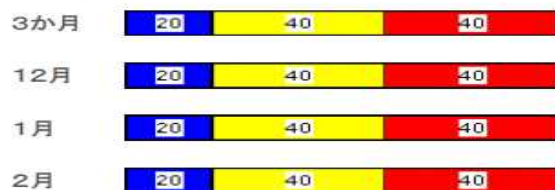
【気温】

[近畿地方]

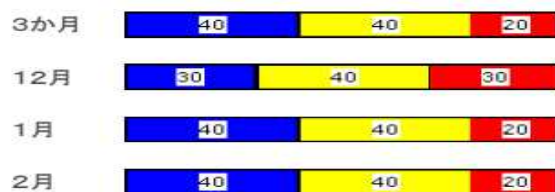


【降水量】

[近畿日本海側]



[近畿太平洋側]



【降雪量】

[近畿日本海側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

春キャベツ

1【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

12月上旬の現地ほ場での発生ほ場率は8.3%と平年値(6.8%)に比べてやや高かったが、発病株率は0.2%と平年値(1.2%)に比べて低く、全体的に平年並の発生状況であった。

今後3か月の気象予報によると、気温は12月がやや低く、1～2月は平年並、降水量も平年並からやや少ないと予想されており、今後は平年並の発生で推移すると考えられる。

タマネギ

1【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

12月上旬の淡路地域の苗床調査では発生は認められなかった。今後3か月の気象予報によると、気温は12月がやや低く、1～2月は平年並、降水量は平年並からやや少ないと予想されている。しかし、今年度の育苗期間中は降雨が多く、台風により苗床の浸水被害を受けた地域もあり、べと病に感染している可能性もあるため、今後は平年並の発生で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

苗床では、予防的な薬剤防除を行い、定植前日の薬剤防除を徹底する。苗床での発生を認めたら、直ちに抜き取り、薬剤防除を必ず行う。定植後は越年罹病株の発生に注意し、確認したら直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出して処分し、伝染源を断つ。本田定植後も定期的に観察するとともに、定植後20～30日頃の薬剤散布を必ず行う。

防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守し、同一成分を含む薬剤は連用しない。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

2【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

12月上旬の現地ほ場での発生ほ場率は2.8%(平年値 0.0%)、発病株率は0.03%(平年値 0.0%)と、全体的にやや多い発生状況であった。

今後3か月の気象予報によると、気温は12月がやや低く、1～2月は平年並、降水量は平年並からやや少ないと予想されている。べと病と同様に今年度の育苗期間中は降雨が多く、台風により苗床の浸水被害を受けた地域もあり、本病の発生につながったと考えられる。そのため、今後もやや多い発生で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

苗床での発生を認めたら、直ちに抜き取り、薬剤防除を必ず行う。防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守し、同一成分を

含む薬剤は連用しない。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

3 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

12月上旬の現地ほ場での発生ほ場率は8.3%（平年値 13.4%）、発病株率は0.03%と平年並の発生状況であった。今後の気象予報によると、特に発生を抑制する要因はなく、ここ数年多発傾向が続いているため、3月以降の気温の上昇と共に発生はやや多くなると予想される。

- (3) 防除上の留意点

主に腐敗病と軟腐病が発生し、立毛中のみでなく収穫後の貯蔵中にも発生するので、体系的に薬剤防除を行い、健苗育成に努める。

防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守し、同一成分を含む薬剤は連用しない。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

春レタス

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

12月上旬の現地ほ場調査では発生ほ場率は8.3%（平年値：12.2%）、発病株率は0.2%（平年値 0.2%）と平年並の発生状況であった。今後の気象予報によると、特に発生を抑制する要因はなく、今後は現地においてトンネル被覆が行われるため、発生はやや増加し、やや多い発生で推移すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

発病株は早期に発見し、菌核が形成される前に抜き取ってほ場外に処分する。発病が認められたほ場では健全株への感染が懸念されるので、予防散布を実施する。

防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守し、同一成分を含む薬剤は連用しない。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

12月上旬の現地ほ場調査では発生認められなかった。今後は現地においてトンネル被覆が行われるため、発生はやや増加し、やや少ない発生で推移すると考えられる。

3 【ビッグベイン病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

12月上旬の現地ほ場調査では発生ほ場率は50.0%（平年値：13.6%）、発病株率9.8%（平年値：1.5%）と、発生時期がやや早く、やや多い発生状況であった。

今後、気温が低下する1月～2月の厳寒期にかけて、やや多い発生で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

本病を媒介する菌は主として水媒伝染するため、ほ場の排水を良好に保つ。また、本菌は高pH（6.0以上）を好むため、土壌pHを下げる肥培管理を行う。

4【腐敗病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

12月上旬の現地ほ場調査では発生認められなかった。しかし、調査定点以外の一部地域で発生が認められた。今後3か月の気象予報によると、気温は12月がやや低く、1～2月は平年並、降水量も平年並からやや少ないと予想されており、今後は平年並の発生で推移すると考えられる。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>